

教科教育キャリアアップフィールド

今年度の12年目研修を振り返って —研修コース「教材研究と授業改善」—

音楽教育専修 朝 田 健

いままで AIMS-Gifu の利用については、実技系の指導であることもあってなかなか利用しづらいていると思っていた。本年度の12年目研修では、研修生が県内各地の先生であることも考慮して連絡やレポート添削に利用することにした。

ところで、昨年までは第一日のための準備については利用していたのだが本年度は AIMS-Gifu 利用の ID を研修第一日に配布することになったので準備のための連絡については別の手段を取らざるを得なかった。

本年は第一日目に ID 配布、利用方法の説明、登録を行ったが、コンピューターに詳しい先生もいらっしゃりスムーズに行えた。この時点で普段インターネット、メールを常用していなくて、連絡は職場にある共通利用のためのコンピューターで行うという不便な先生もいらっしゃることがわかった。

しかし、AIMS-Gifu は、メールとは異なりブラウザから直に接続できるので、プライバシーの点からは、職場の共通のコンピューター利用するという点では問題なかったと思う。

第一回の終わりに次回の日程を決めたが、職場の行事などで都合が悪くなり変更を余儀なくされた先生がいらっしゃったが、その変更には的確に対応できた。

次に研修でのやりとりについて。こちら側は研究室にコンピューターがあり事務連絡や仕事で常に利用しているので、AIMS-Gifu につなぎ内容を確認するのは比較的容易であるが、先生方はインターネットに接続をしてコンピューターを利用する機会が少ならしく、AIMS-Gifu へ接続するときは自分の研修内容がある程度まとまったときに質問なり、指導を求められるので、日常的な利用には不向きである。他の研修生の質問や研修内容に意見やアドバイスをするなどして相互の交流を図り、研修内容を高めていこうと思っていたがうまくいかなかった。接続環境のほかに、AIMS-Gifu のなかにすべてのやりとりを共有できるような環境があっても、やはり、質問内容についてこちらが応える、それについて意見を交わすといった基本的には一對一のやりとりである。そのやりとりの内容を聞いてみて、状況判断をするということは難しいようである。掲示板やコミュニティーといった場に接続した時点で文章が直に目にとまるようになると仲間のやりとりにアドバイスや意見が述べることが容易になると思う。

一對一の利用については、意見や質問を、意を尽くすまで書き込むことができ、対応についても、こちらの時間都合に合わせてじっくり考えて対応することができ有効である。添付書類についても修正をして返信することができやりとりはうまくいった。

問題点を一つあげると、学校現場にて使っている文書作成ソフトと AIMS-Gifu で利用可能なソフトが完全に一致していないため、ある研修生には私自身のメールアドレスに書類を送ってもらった。AIMS-Gifu 上ですべてやりとりができないということは改善が必要であろう。

次に研修内容について。第一日目の内容として全員がむかいあって、すべての研修課題を説明する場をもうけている。自身の課題の明確化をはかるとともに、他の研修生の意見やアドバイスを得ることができ有意義であるので続けている。

特に音楽の場合、小学校と中学校のそれぞれの立場からの意見は、義務教育9年という視点からも有益である。また、音楽専門でない先生がいままで蓄積されてきた立場から意見をいわれたり、音楽教員としての資質の向上という立場から課題を発表されたりして、音楽専門の立場からの現場の指導内容に沿った意見を得られるのは大変有意義であると感じられている。小学校においても中学校においても音楽教科の立場を任されている先生は学校単位で一人しかいないという場合が多い。とくに中学校では一人の場合が多く大変苦勞されているし非常に不安を感じておられる。さまざまな研究会に参加して研修されているが、研究発表と自分の実践とを関連づけるような意見交換ができないのが現状のようである。

この研修ではじかに、具体的な話し合いをすることができ、自分の課題についてより深い理解を得ることができるのである。

次に実践について。授業改善という研修コースの内容から、今回新しく課題に即した研究授業を行って実践的研修とした。

九月に入ってから学校行事の合間をぬって日程を設定した。ここにも AIMS-Gifu は大変有効であった。三人の先生方は自分の課題を克服すべく内容を検討し、指導案を作成して当日に望まれた。第一日の話し合いによる課題の吟味と、約一ヶ月の間に練られた研究課題、その趣旨と内容について AIMS-Gifu を利用して練り上げていった。指導案についても、研究課題に沿った工夫を取り入れたものを考えて、意欲的に自己改善に取り組んでいった。

ある小学校では、研修生の授業を校内研究会のような形にする配慮がなされており、多くの先生方が研修生の取り組む授業を見て、メモを取りながら研修されていた。この学校では、私以外のコースでも同じように研修への取り組みをされており、学校ぐるみの12年目研修への積極的な取り組みに感動した。

四人の研修生はそれぞれの課題について約二ヶ月にわたり前向きに取り組んでこられた。A先生は鑑賞のあり方の一つの視点として、鑑賞曲の要素を図式化して歌唱表現へ生かす方法を考えられた。B先生は授業一つ一つが効果的に学習を深める場になるために小学校6年間を見据えた授業の流れと関連づけが大切であることを再認識され6年間の指導計画を見直しされた。C先生はパート練習が単なる技術習得にならないよう音楽的内容を言葉やハンドサインで表しながら生徒が自ら練習に取り組むよう試みられた。D先生は鑑賞によって培われたさまざまな音楽要素やその違いを感じ取る力を、合奏における楽器選びや奏法の工夫にどのように生かすことができるか取り組まれた。

12年目研修がその趣旨の一つである12年間教員として培ってきた様々な方法や力を見直す機会となるよう、授業の内容という立場から研修をすすめてきた。今後もいろいろと工夫改善を試みながら研修の機会を提供していきたい。